迷子の子竜と村娘

ナリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
迷子の子竜と村娘

【Ｎコード】
Ｎ８９９４Ｙ

【作者名】
ナリ

【あらすじ】
人間の領地に迷い込んできた子ドラゴンと、それを拾った天涯孤独な村娘の話。全８話。

1

ここは、エメイラという国の東の端にある小さな村。
自給自足は当たり前、周りを深い森に囲まれた、さびれた村だ。

「だめよキュウ、外に出ちゃだめ」

古く小さな家の入口で、ルーシャは中にいる『キュウ』にそう言いつけていた。

「食べ物をとってくるから、いい子で待ってて。誰か来ても扉を開けては駄目よ」

キュウの頭をひと撫でしてから扉を閉める。と、中からは「きゅうきゅう」という寂しげな鳴き声が聞こえてきた。まさに、彼の名前の由来になった鳴き方だ。
悲しい時や寂しい時、そして甘えたい時なんかに、キュウはそんな風に鳴くのだ。

ルーシャは後ろ髪を引かれる想いで家から離れた。キュウは頭がよく、ルーシャが遠ざかっていく足音が聞こえると、呼び戻すのを諦めぴたりと鳴き止んだ。
賢いんだか、ちゃっかりしてるんだか。
ルーシャはふふっと笑いながら、キュウに与える果物をとるために、村の外れの森へと向かった。

「やぁ、ルーシャか」

と、その途中で、羊たちの世話をしている年配の男性に出会った。年のせいで白くなった髪が、風に寂しく揺れている。

「こんにちは、アイノスさん」

ルーシャはこの人物が少し苦手だった。なので挨拶だけして足早にその場を去ろうとしたのだが、アイノスはそんな彼女に遠慮なく話しかけてくる。

「どうだ、うちの息子との結婚の事、少しは考えてくれたかね？」

「いえ、あの……私まだ、結婚は……」

ルーシャは困ったようにうつむいた。が、アイノスは追撃の手を緩めない。

「だが、君も今年で１８だろう？　あまりゆっくりしていると嫁き遅れるぞ。両親のいない君を嫁にもらってやろうという家が、うち以外にあると思うかね」

余計なお世話です！　と叫べたなら、どんなにスッキリするだろう。ルーシャはそんな事を考えながら、ただ曖昧にほほ笑むだけだった。

「そうですね、考えておきます……」

大体、アイノスの息子というのは、もう５０近いおじさんなのだ。アイノスは自分たちの世話――という名の介護――をさせるために嫁をとろうとしているのだろう。

「では」

アイノスがまた話し始める前に、ルーシャは会釈をしてそそくさとその場を離れた。
早足で森の前まで来てから、ふぅとため息をつく。自分も近い将来、誰かと結婚しなくてはならないことは分かっている。それが世間の常識だから。
しかしまだ好きな人もいないし、身を固める気もなかった。なにより今ルーシャは、キュウの世話で精一杯だったし。

「あ、カリムの実。キュウの好物なのよね」

しかし、キュウの世話を焼くのは楽しく、ちっとも大変だとは思わない。
ルーシャはキュウの喜ぶ顔を思い浮かべながら、後ろに背負った大きなかごにカリムの実を入れていった。

「これくらいでいいかな？」

背中がずっしりと重くなったところで、ルーシャはひと息ついた。今日は仕掛けておいた罠にうさぎが掛からなかったので、収穫は果物ときのこだけ。肉が好きなキュウはちょっとがっかりするかもしれない。
ルーシャは真っ赤な西日を浴びながら、キュウの待つ我が家へと帰っていった。

「きゅうきゅう！」

家へ近づいていくと、キュウは待ちきれないとばかりに鳴き出していた。彼はルーシャの足音と他の人間の足音を正確に聞き分けているらしい。

「お待たせ、今帰ったわ」

ルーシャはにこにこと笑って、家の扉を開けた。

そこに待ち受けていたのは、金色のうろこを持つ大きな爬虫類のような生物――ドラゴンだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8994y/

迷子の子竜と村娘

2011年11月26日23時50分発行